

13. 筋骨格系および結合組織の疾患

文献

下市善紀、春木淳二、若山育郎. 腰痛患者に対する鍼治療 日本で実施された RCT のシステマティックレビュー. 全日本鍼灸学会雑誌 2014; 64(1): 37-53. 医中誌 Web ID:2014143326

1. 目的

日本人の腰痛に対する日本の鍼治療の有効性の確認

2. 研究デザイン

メタアナリシス (Meta-Analysis)

3. データソース

医学中央雑誌(1983年～2011年3月)、CiNii(1991年～2011年3月)、PubMed(1983年～2011年3月)、全日本鍼灸学会データベース(1981年～2007年)、J-STAGE(2007年～2011年6月)、J-Dream II(1983年～2011年6月)およびハンドサーチ。

4. 研究の選択

日本人の腰痛患者(急性及び慢性)に対する鍼治療(皮膚への穿刺を伴う)と偽鍼、無治療または現代医学的介入等を比較した RCT、CCT、またはクロスオーバー試験の内、痛みに対する Visual analogue scale(VAS)、Roland Morris Disability Questionnaire(RDQ)、もしくは Pain Disability Assessment Scales(PDAS)の内のいずれかを評価項目とした論文、94編が対象。

5. データ抽出・統合

3名が共同で基準を満たす論文をレビューに組み入れ、研究者間で意見の違いがある場合は協議の上決定。解析には Cochrane Review Manager 5(2010)を用いて MA を実施。

6. 主要アウトカム・測定尺度

VAS 及び RDQ の standardized mean difference(SMD)。論文の質は Modified Jadad Quality Score と鍼灸用に改編した Chalmers Score を用いて評価。

7. 主な結果

原著論文 13 編、会議録 6 編の計 19 編が MA 対象論文となった。

MA1、MA2：置鍼と偽鍼を比較した研究で VAS の MA(MA1、MA2)で統計学的異質性を示した。MA1 の SMD は-1.79(95%信頼区間-2.89～-0.69)であった。RDQ を評価項目とした場合の MA2 の SMD は-1.23(95%信頼区間-2.07～-0.38)で置鍼は偽鍼と比較して有意に疼痛軽減効果(p=0.001)、腰痛軽減効果を有した(p=0.004)。

MA3：雀啄術と偽鍼の比較で VAS の MA は統計学的に同質、SMD は-0.49(95%信頼区間-0.98～-0.00)で雀啄術は偽鍼と比較して有意に疼痛軽減効果を有した(p=0.05)。

論文の質に関してはばらつきが在り、決して質の高い論文が多いとは言えなかった。

8. 結論・意義

置鍼 及び、雀啄術と偽鍼を比較した研究の MA から日本人の腰痛に対する日本式の鍼治療の有効性が示唆された。

9. 鍼灸医学的言及

置鍼と偽鍼、雀啄術と偽鍼の比較。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本邦における鍼灸領域での MA 論文は稀少であり、その中でも本研究は日本人の腰痛に対する日本式の鍼治療の有効性を示した論文とした大変貴重なものである。今後さらなる視点での MA が実施されることを期待する。

12. Abstractor and date

大川祐世 2016.12.6